

※絶対値記号が正しく表示されない場合があります。

答・解説

【解説】

【1】

$$(1) \vec{AB} = (-5-3, -4-6) = (-8, -10)$$

$$|\vec{AB}| = \sqrt{(-8)^2 + (-10)^2} = 2\sqrt{41}$$

$$(2) \vec{BC} = (-2-(-5), 1-(-4)) = (3, 5)$$

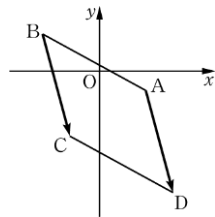
$$|\vec{BC}| = \sqrt{3^2 + 5^2} = \sqrt{34}$$

$$(3) \vec{CA} = (3-(-2), 6-1) = (5, 5)$$

$$|\vec{CA}| = \sqrt{5^2 + 5^2} = 5\sqrt{2}$$

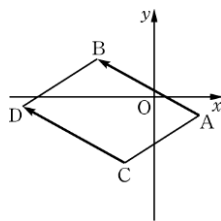
【2】

(1) 点Dの座標を(x, y)とすると,
 $\vec{AD} = \vec{BC}$ であるから
 $(x-5, y-(-2)) = (-3-(-6), -7-4)$



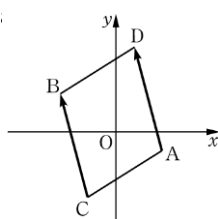
よって $x-5=3$
 $y+2=-11$
 したがって $x=8$
 $y=-13$
 ゆえに **D(8, -13)**

(2) (i) 平行四辺形ABDCのとき, 点Dの座標を(x, y)とすると,
 $\vec{AB} = \vec{CD}$ であるから
 $(-6-5, 4-(-2)) = (x-(-3), y-(-7))$



よって $x+3=-11$
 $y+7=6$
 したがって $x=-14$
 $y=-1$
 ゆえに **D(-14, -1)**

(ii) 平行四辺形ADBCのとき, 点Dの座標を(x, y)とすると,
 $\vec{AD} = \vec{CB}$ であるから
 $(x-5, y-(-2)) = (-6-(-3), 4-(-7))$



よって $x-5=-3$

$$y+2=11$$

したがって $x=2$
 $y=9$
 ゆえに **D(2, 9)**

【3】

$\vec{a} \parallel \vec{b}$ より $\vec{b} = k\vec{a}$
 となる実数kがあるから
 $(x, -10) = k(3, 5)$
 よって $x=3k, -10=5k$
 したがって $k=-2, x=-6$

【別解】

$$\frac{5}{3} = \frac{-10}{x} \text{より } x = -6$$

【4】

求めるベクトルを \vec{b} とおくと, $\vec{a} \parallel \vec{b}$ より, kを実数として
 $\vec{b} = k\vec{a}$
 $= k(1, -2) = (k, -2k)$

と表され
 $|\vec{b}| = \sqrt{k^2 + (-2k)^2} = 2$
 これより, $5k^2 = 4$ であるから
 $k = \pm \frac{2\sqrt{5}}{5}$

よって, 求めるベクトルは
 $(\frac{2\sqrt{5}}{5}, -\frac{4\sqrt{5}}{5}), (-\frac{2\sqrt{5}}{5}, \frac{4\sqrt{5}}{5})$

【別解】

$$\pm \frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} \times 2 = \pm \frac{2}{\sqrt{5}}(1, -2)$$

として求めてもよい。

【5】

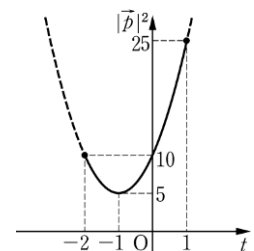
$(\vec{a} + t\vec{b}) \parallel \vec{c}$ であるから, mを実数として, $\vec{a} + t\vec{b} = m\vec{c}$ と表される。
 よって

$$(3, 1) + t(-3, 4) = m(1, -1)$$

$$(3-3t, 1+4t) = (m, -m)$$

したがって $3-3t=m, 1+4t=-m$
 ゆえに $t=-4$

【6】



$$\vec{p} = (3, 1) + t(2, -1) = (3+2t, 1-t)$$

よって

$$|\vec{p}|^2 = (3+2t)^2 + (1-t)^2$$

$$= 5t^2 + 10t + 10$$

$$= 5(t+1)^2 + 5$$

$-2 \leq t \leq 1$ より, $|\vec{p}|^2$ は
 $t=1$ のとき 最大値25
 $t=-1$ のとき 最小値5
 をとる。

ゆえに、 $|\vec{p}|$ は
 $t=1$ のとき 最大値5
 $t=-1$ のとき 最小値 $\sqrt{5}$
 をとる。

【7】

$$(1) \vec{p} = \vec{a} + t\vec{b}$$

$$= (-1, 3) + t(1, -1)$$

$$= (t-1, -t+3)$$

$$|\vec{p}| \leq 2 \text{より } |\vec{p}|^2 \leq 4$$

よって

$$(t-1)^2 + (-t+3)^2 \leq 4$$

$$t^2 - 4t + 3 \leq 0$$

$$(t-1)(t-3) \leq 0$$

ゆえに $1 \leq t \leq 3$

$$(2) |\vec{p}|^2 = (t-1)^2 + (-t+3)^2$$

$$= 2t^2 - 8t + 10$$

$$= 2(t-2)^2 + 2$$

よって、 $|\vec{p}|^2$ は

$$t=2 \text{のとき 最小値} 2$$

をとる。

ゆえに、 $|\vec{p}|$ は

$$t=2 \text{のとき 最小値} \sqrt{2}$$

をとる。

【8】

$$\vec{a} + t\vec{b} = (2, 5) + t(1, 2) = (2+t, 5+2t)$$

(1) $\vec{a} + t\vec{b}$ が \vec{c} と平行となる条件は

$$\vec{a} + t\vec{b} = k\vec{c} \quad (k \text{は実数})$$

$$\text{よって } (2+t, 5+2t) = (3k, k)$$

すなわち

$$2+t = 3k \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$5+2t = k \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①、②から k を消去して $2+t = 3(5+2t)$

よって

$$t = -\frac{13}{5}$$

$$(2) |\vec{a} + t\vec{b}|^2 = (2+t)^2 + (5+2t)^2$$

$$= 5t^2 + 24t + 29$$

$$= 5\left(t + \frac{12}{5}\right)^2 + \frac{1}{5}$$

よって、 $|\vec{a} + t\vec{b}|^2$ は、 $t = -\frac{12}{5}$ のとき最小値 $\frac{1}{5}$ をとる。

ゆえに、 $|\vec{a} + t\vec{b}|$ は $t = -\frac{12}{5}$ のとき最小値 $\frac{\sqrt{5}}{5}$ をとる。